

クロサギ *Egretta sacra* (Gmelin)

【選定理由】

主に非繁殖期、遠州灘や伊勢・三河湾の沿岸や島嶼に生息するが数は少なく、確認場所も安定していない。遠州灘沿岸には繁殖が可能な環境はなく、三河湾の島嶼では過去を含め繁殖の可能性が期待されていたが、近年は島嶼で確認できる頻度が低下している。生態に不明な部分は多いが、県内での比較的安定した確認場所は限られており、その数も少数である。

【形態】

全長 62cm。全身がすすけた黒色で、他のサギ類に比べて嘴は太めで足は短い。嘴と足は黄色。南西諸島以南には、全身が白色のタイプも生息するが、県内では白色のタイプの正式な記録はない。



愛知県西尾市, 2016年8月6日, 高橋伸夫 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

非繁殖期に沿岸部や三河湾の島嶼で確認されており、稀に内陸部でも記録がある。県内では非繁殖期に、伊良湖岬周辺で継続して観察されることから、「越冬」個体群と変更した。

【国内の分布】

太平洋側では房総半島以西、日本海側では男鹿半島以南で繁殖し周年生息するが、一部は冬期に移動するとされる。

【世界の分布】

東アジア、東南アジア、オーストラリア、ミクロネシアに分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

自然の岩礁が発達した海岸に生息し、岩場や砂浜を歩きながら魚類、カニ類、貝類をなど捕食する。島嶼の岩場では警戒心が非常に強く、近くで観察できることは希である。断崖の岩の隙間に小枝等を集めて営巣するとされるが、県内での繁殖は確認されていない。飛ぶ時に、グアッと鳴く。

【現在の生息状況／減少の要因】

県内の生息地は、主に渥美半島西部の太平洋沿岸部と知多半島南部から三河湾の島嶼部にかけての岩礁が知られているが、生息数はごく少ない。確認記録の大半は非繁殖期のものであるが、三河湾の島嶼部では夏期の記録もあり、県内における繁殖の可能性も否定はできない。警戒心が強いことで釣り人による影響を受け易い種であり、釣り糸による被害例もある。

【保全上の留意点】

特別な保全対策は不要と思われるが、何気ない岩礁にもその環境に依存して生息する生物が存在することを、訪れた人に知ってもらうことは必要と思われる。

【特記事項】

愛知県鳥類生息調査地で最も記録が多いのは、伊良湖岬周辺の古山である。「三重県レッドデータブック 2015」（三重県農林水産部みどり共生推進課, 2015）には、現況は未確認としながら、鳥羽市の離島で繁殖記録があると記されている。島の名前は記されていないが、遠くの島でも伊良湖岬からは 13km 程度の距離であり、神島であれば 4km 余りの距離になる。三重県で現在も繁殖しているのであれば、古山での記録が多い理由となる。

県内でも、観光地化されている 3 島や、三河湾の奥に位置する島では困難であるが、知多半島先端と渥美半島先端との間にある無人島の中には、本種が繁殖している島があるかもしれない。

【引用文献】

三重県農林水産部みどり共生推進課, 2015. 三重県レッドデータブック 2015～三重県の絶滅の恐れのある野生生物～, p.71. 三重県, 津市.

(高橋伸夫)